

特定健診受診で

なにがわかるの？

特定健診は、生活習慣病の早期発見・早期予防に非常に有効です。では、実際にどのような検査が実施され、どのような病気を発見・予防することができるのか見てみましょう。

健診項目		健診で発見できること	
身体測定	身長	動脈硬化の危険因子 (血管への影響因子)	身体の大きさ
	体重		
	BMI		
	腹囲		
肝機能	AST (GOT)		内臓脂肪の蓄積
	ALT (GPT)		
	γ-GT (γ-GTP)		
血 圧			血管の傷み
尿 酸			
脂質	中性脂肪		脂質異常
	HDL コレステロール		
	LDL コレステロール		
インスリン抵抗性	血糖値	糖尿病	
	ヘモグロビンA1c		
	尿糖		
腎機能	尿蛋白	血管変化	腎臓病
	クレアチニン		

これらの検査を受けることで、次の項目が分かります。

○糖尿病や脂質異常などの生活習慣病の有無

○生活習慣病予備群であるかどうか

○脳血管疾患（脳梗塞・脳出血など）・心疾患（狭心症・心筋梗塞など）・腎不全などを引き起こす危険因子の状態

○動脈硬化による血管変化の予測
生活習慣病や危険因子の悪化は自覚症状なく進行するため、検査無しでの発見は難しいです。気づ

かないまま長期間放置していると、動脈硬化を進行させ、脳血管疾患など生命を脅かす病気に繋がります。

しかし、健診を受診し、早期発見ができれば食事や運動などの生活習慣の改善に早くから取り組むことで、健康を保つことができます。

現在、通院・治療中で定期的な検査を受けている場合でも、特定健診にある検査項目が含まれていない場合もあるため、必ず特定健診を受診しましょう。

